

協働による住みよいまちづくりセミナー開催結果（概要）

日 時	令和5年11月11日（土）
場 所	苫小牧市民活動センター（ふれあい3・3）講習室A
参 加 者	10名
概 要	<p>1 講義・講演要旨</p> <p>講義① 苫小牧市自治基本条例のご紹介</p> <p>【自治基本条例とは】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくりを進める上での基本的ルール」を定めた条例 ・他の自治体でも様々な名称で制定されている条例 <p>【条例が制定された時代背景について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までは全国一律に同じような街づくりが行われていた。 ・市民ニーズの多様化、人口減少等により、国主導のまちづくりに不都合が出てきた。 ・「地域に合わせたまちづくり」という気運の高まりで地方分権が進展 ・地方分権が進み、国と自治体は「対等・協力」の関係と位置付け ・まちづくりは、自治体の責任で、自ら考え、決める必要 ・平成19年にまちづくりの基本的ルール「苫小牧市自治基本条例」施行 <p>【条例の規定について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苫小牧市自治基本条例は「まちづくりを進めるうえでの基本的なルール」 ・重要な条文について、抜粋して説明 <p>第1条（目的）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民自治とは「まちづくりの主役は市民の皆さん」ということ <p>第3条（まちづくりの基本原則）</p> <p>「情報共有の原則」：市民と行政がまちづくりに関する情報の共有</p> <p>「市民参加の原則」：まちづくりの主役である市民が市政運営に参加</p> <p>「協働の原則」：各主体が強みを活かして課題解決に向けて協力</p> <p>第29条（条例の見直し）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年を超えない期間ごとに見直しを実施。 ・最新の自治の課題に対応 <p>第30条（市民自治推進会議）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第29条の条例の見直しは市民自治推進会議にて行っている。 ・市民自治推進会議以外にも、福祉、環境などそれぞれの分野で議論を行

う審議会が設置されている。

講義② 協働による住みよいまちづくりセミナー

【住みよいまちづくりとは】

・住みよいまちづくりは、人々が快適に暮らせる環境整備を目的とした取組で、6つの要素がある

- ① 住環境の整備
- ② 公共施設の整備
- ③ 防災対策の強化
- ④ 環境保全の推進
- ⑤ 交通インフラの整備
- ⑥ 地域コミュニティの活性化

・SDGsの17の目標の一つ（11．住み続けられるまちづくりを）

【協働の重要性と実現に向けたポイント】

- ・相互理解の原則～異なる組織や立場の人々が協力するためお互いの長所や短所を理解し、信頼関係を築くことが大切
- ・目的・評価共有の原則～共通の目的を明確にし、目標を共有することが必要
- ・役割分担明確化の原則～それぞれの強みを生かして果たすべき役割や責任の分担を明確にすることが必要
- ・情報公開の原則～情報を共有すること、コミュニケーションを取っていくことが大事
- ・自立の原則～それぞれが主体性を持ち自立して行動することが必要

【SDGsとまちづくりのつながり】

- ・「11．住み続けられるまちづくりを」は他の目標とも密接に関連があるため、達成に向けた取組は多くの目標にも波及する。
- ・日本のSDGs達成度ランキングは2022年度時点で19位

【住みよいまちづくりの事例紹介】

- ・まちづくりカフェ（東京都渋谷区）～まちづくりの意見交換を行う場を提供し、住民の参加意識を高める取組をしている
- ・まちづくりボランティア（兵庫県神戸市）～地域の公園や道路を美化するボランティア活動で、地域住民の交流の場となる。

概 要	<p style="text-align: center;">グループ討議概要</p> <p>1 グループ討議のテーマ</p> <p>グループでそれぞれ取り上げたい地域課題の解決策を考え、グループごとに以下のように決まった。</p> <p>【A グループ】 交通インフラと鹿対策</p> <p>【B グループ】 ゴミ問題、地域コミュニティの低下、女性の市議会議員が少ないこと</p> <p>2 グループ討議の内容・発表等（どのような討議がされたか）</p> <p>【A グループ】 テーマ：交通インフラと鹿対策 交通インフラが問題で、移動がしづらいという視点で、市民からのバスの便や時間帯についての声を共有し、意見を反映していただきやすい場を作ることや、乗り合いタクシー等、バス、タクシー以外の有用な移動手段の新設をしてほしい。 鹿対策については、鹿がいたことをアプリ等で即座に共有する仕組みづくりや、鹿の被害を集約して公表するような場を作る。 また、鹿被害を防ぐ柵作りを市や他の機関で補助していただく仕組みがあれば対策も可能。 捕えた鹿の活用として、料理、皮を活用した商売に繋げることもできると考えている。</p> <p>【B グループ】 テーマ：ゴミ問題、地域コミュニティの低下、女性の市議会議員が少ないこと 3つの問題を挙げているが、全て繋がる問題と考えている。 ゴミの分別に関する情報が市民に浸透していないと思われるため、各町内会や小学校でゴミ分別に関するセミナーや、うまく分別できなかった際にどうなるのか等のセミナーを実施し、ごみについての知識を深めよう。 また、捨てたくなるようなかわいいデザインのゴミ箱を小学生にデザインしていただき、捨てたくなるゴミ箱を作成・設置するとともに、イラストでわかる分別看板を近くに配置することで、正しい分別につなげ</p>
--------	---

ていく。

市内全体で年 1, 2 回ゴミ拾いをする事で市民に対するゴミの問題意識を実感していただき、意識醸成を図る。

活動を、SNS 等で発信し、きれいになった苫小牧市を PR していくとよい。

3 講師等（他の参加者を含む）からグループ（班）への質疑応答等

質疑はなかった。

4 講師等からの講評等

（グループから出された方策等をどのようにまとめたか）

鹿の問題やゴミの問題は、私自身も身近に感じている。キャンプ場に行ったときに、テントのすぐ近くまで鹿が来ていることもあった。グループ発表でも出ていたが、捕まえた鹿を活用するという視点は大切だと考えており、ジビエとして鹿肉を活用するという事は、鹿対策の取組になると考えている。

また、私の妻が道産食材を使用した商品開発をしていて、実際に鹿肉のジンギスカンも商品としてある。

ゴミについても、最近引っ越しをし、様々なゴミが多く発生した。対応に苦慮していたところ、近所に民間企業のサービスで「じゅんかんコンビニ」というごみを捨てることのできる場所があり、そこに持っていったゴミはリサイクルされる。また、ゴミを捨てた人は、ゴミの重量でポイントがたまり、商品券に交換できるサービスがある。

このように、ゴミ捨てたくなるような仕組みを作ることもゴミ問題の解決策の一つになると考えている。

我々市民が主役になって、住みよいまちづくりが成り立つと考えている。本日話し合ったことをきっかけに、皆さんの力で苫小牧市をより住みよいまちにしていただきたい。

協働による住みよいまちづくりセミナー

苫小牧市自治基本条例のご紹介



令和5年11月11日
総合政策部
協働・男女平等参画室

この事業はサマージャンボ宝くじの収益金を活用して実施しています。

1

自治基本条例って何？

内容

- ・まちづくりの理念、目標
- ・市民の権利
- ・市民、議会、首長の責務等
- ・市民参加の仕組み
- ・協働の仕組み

**自治体の憲法と
呼ばれることも**

まちづくりを進める上での基本的なルール

2

自治基本条例が 必要とされた時代背景

これまで

国

↓ 指揮・命令

道

↓ 指揮・命令

市

国の政策を
画一的に執行



市民ニーズの多様化や人口減少、
少子高齢化等で今までどおりの
公共サービスが困難……。

3

自治基本条例が 必要とされた時代背景

地方分権の進展

平成12年～地方分権一括法の施行

まちづくりは
国が中心



まちづくりは
地域が中心

地域の
責任・負担・決定

まちづくりを進める基本的なルールを決める必要

苫小牧市自治基本条例

第1条、第2条

目的（第1条）

まちづくりの基本原則を定め、
市民及び市の責務等を明らかにするとともに
市政運営の原則を定めることにより、
市民自治によるまちづくりの推進を図る

定義（第2条）

市民	市内に住所を有する者、市内で働く者、市内で学ぶ者、市内で活動する法人その他の団体のこと。
市	議会及び市長その他の執行機関のこと。 ※執行機関の例：教育委員会、選挙管理委員会、監査委員等

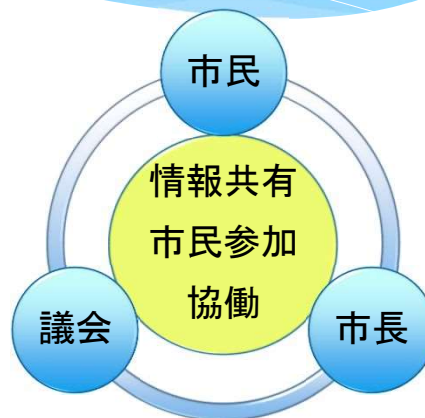
まちづくりの主役は市民の皆さん

5

苫小牧市自治基本条例

第3条（まちづくりの基本原則）

- 情報共有～まちづくりの情報を共有
- 市民参加～市民参加による市政運営
- 協働～市民と市が対等な関係で協力



6

苫小牧市自治基本条例 第7章、第29条 第8章、第30条

第7章第29条 条例の見直し

- ・この条例の施行の日から4年を超えない期間ごとに条例の規定について検討を加え、その結果に基づいて必要な見直しを行うものとする。

第8章第30条 市民自治推進会議

- ・市長の附属機関として市民自治推進会議を置く。
- ・市長の諮問に応じ、条例の運用の状況及びまちづくりに関する基本的な事項について調査審議するほか、市長に意見を述べることができる。

7

まとめ

自治基本条例とは？

まちづくりを進める上での基本的なルール

趣旨・目的(伝えたいこと)は？

まちづくりの主役は市民の皆さん

8

協働による住みよいまちづくりセミナー

1.住みよいまちづくりとは

「住みよいまちづくり」は、人々が快適に暮らせる都市環境を整備することを目的とした取り組みです。この取り組みは、国連の持続可能な開発目標（SDGs）のうち、11番目の目標「住み続けられるまちづくりを」にも掲げられています。

「住みよいまちづくり」には、以下のような要素が含まれます。

- ・ 住環境の整備
- ・ 公共施設の整備
- ・ 防災対策の強化
- ・ 環境保全の推進
- ・ 交通インフラの整備
- ・ 地域コミュニティの活性化

これらの要素をバランスよく取り入れた都市計画を策定し、実行することで、人々が安心して暮らせるまちづくりが実現されます。

苫小牧市について、「もっとこうなったらいいな」と思うことは、どんなことですか？



2.協働の重要性と実現に向けたポイント

「住みよいまちづくり」において、協働は重要な役割を担っています。協働によって、市民や行政、事業者などが協力して、地域の課題を解決し、より良いまちづくりを実現することができます。

協働を実現するためには、以下のポイントが重要です。

・相互理解の原則

協働においては、異なる組織や立場の人々が協力するため、相互理解が必要です。お互いの長所や短所を理解し、信頼関係を築くことが大切です。

・目的・評価共有の原則

協働においては、共通の目的を明確にし、目標を共有することが必要です。また、事業実施後には、客観的な評価を行うことが重要です。

・役割分担明確化の原則

協働においては、双方が果たすべき役割や責任の分担を明確にすることが必要です。

・情報公開の原則

協働においては、情報を公開することが大切です。市民や行政がお互いの情報を共有することで、協働を円滑に進めることができます。

・自立の原則

協働においては、お互いが自立して行動することが必要です。それぞれが主体性を持ち、責任を持って行動することが大切です。

以上のポイントを踏まえ、協働を実現することで、より良いまちづくりが実現されます。

3.SDGs とまちづくりのつながり

「SDGs」とは、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」の略称です。これは、国連が掲げる、貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指す 17 の目標のことです。

SDGs の目標は相互に関連しており、誰一人置き去りにしないために、2030 年までに各目標・ターゲットを達成することが重要です。

●SDGsの17の目標

1. 貧困をなくそう	2. 飢餓をゼロに	3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに	5. ジェンダー平等を実現しよう	6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	8. 働きがいも経済成長も	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任、つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を	14. 海の豊かさを守ろう	15. 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公正をすべての人に	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	

●「11. 住み続けられるまちづくりを」について

「住み続けられるまちづくりを」とは、誰もが安全で快適に暮らし続けられるよう、気候変動や社会課題に適応したレジリエントな都市を実現することを目指す国際目標です。

具体的には、適切で安価な住宅や基本的サービスの提供、公共交通機関の拡充、緑地の整備、災害時の対応力強化などが挙げられます。

この目標の達成には、国や地域の開発計画の強化や、市民の参加を促す取り組みが必要です。

「住み続けられるまちづくり」の実現に向けて、特に大切だと思うことはどんなことですか？



4.住みよいまちづくりの事例紹介

・まちづくりカフェ（東京都渋谷区）

住民が集い、まちづくりについて意見交換を行う場所を提供する取り組み。地域の課題を共有し、解決策を模索することで、住民の参加意識を高めることができます。

・ごみ拾いボランティア（神奈川県横浜市）

地域の公園や道路などを清掃するボランティア活動。地域の美化につながるだけでなく、地域住民の交流の場となることが多いです。

・まち歩きツアー（京都府京都市）

地域の歴史や文化について学ぶためのツアー。地域の魅力を再発見することで、地域住民の誇りを取り戻すことができます。

・まちづくりワークショップ（大阪府豊中市）

住民が自分たちのまちづくりについて考え、アイデアを出し合う場を提供する取り組み。住民の意見を反映したまちづくりが進むことで、住民の参加意識を高めることができます。

・地域のお祭り（福岡県福岡市）

地域の祭りを企画・運営する取り組み。地域住民が一堂に会し、交流を深めることができます。

・まちづくりボランティア（兵庫県神戸市）

地域の公園や道路などを美化するボランティア活動。地域住民の交流の場となることが多いです。

5.ワークショップ～地域課題の解決策を考える～

● 苫小牧が抱える地域課題や抱える問題

・人口減少

苫小牧市の人口は、2020年12月末時点で、前年比1037人減の17万205人で、7年連続で前年を下回りました。

2022年末時点での人口は16万8299人で、前年に比べ更に1229人減少し、9年連続で前年を下回りました。

・少子高齢化

苫小牧市は、少子高齢化に直面しています。2021年12月末の時点では、65歳以上の割合は29.81%となり、過去最高を更新したと報じられています。

・鹿のトラブル

苫小牧署管内（東胆振1市4町）で2022年に起きたエゾシカが原因の交通事故は560件で、全道66カ所の警察署別で3年続けて最多でした。また、農家への被害や一般住宅の庭に侵入など、鹿に関する多くの問題を抱えています。

・東西格差

苫小牧市内を東西に分けると、東側は市街地が広がり、西側は自然豊かな地域です。東側にはJR 苫小牧駅があり、交通の利便性が良いのですが、東西の行き来についてはバスの本数が少なく、利便性があまり良くありません。

●ワークショップ

- ・地域課題の解決策を考えてみましょう。

①取り上げたい地域課題について

②地域課題について、有効な取り組みや解決策について（ブレインストーミング）

※ブレインストーミングの4原則

- 1.批判しない
- 2.自由な発想
- 3.質より量
- 4.他者に乗っかる

③有効な取り組みや解決策についてのまとめ（アイデアのグルーピング）